

經濟論叢

第十四卷 第六號

故名譽教授神戸正雄博士遺影および筆蹟・原稿

統計学ニ社会科学的认识手段論の 問題点……………	大橋隆憲	1
資本主義の運動法則における 論理的なものと歴史的なもの(=)…	吉村達次	17
急速稅務減価償却をめぐる 所得稅會計の保守主義……………	高寺貞男	37
ヘンリ・ジョージについての一考察…	北沢康男	55
ソースタイン・ヴェブレンに関する 一研究……………	中山大	68
神戸正雄先生による 再保險特約方式の輸入……………	佐波宣平	85

記事

神戸先生御逝去……………	91
追憶文……………	96

新村出	井藤半弥	本庄榮治郎	小島昌太郎
石川興二	嵯川虎三	大谷政敬	小山田小七
堀江保藏	島恭彦	松井清	

昭和三十四年十二月

京都大學經濟學會

謹んで
哀悼の意を表す

京都大学経済学会



故神戸正雄博士

不轉不遷

先政經卷

(一) 愼重——冒險を行はず、踏車、板敷を行は

ず。一殊を穿つこととしおこつた。空を以てし

山かた絶壁とて予、ノートに限おく決意した。

(二) 協調——人と争うことを避く。同僚の言

調和にフヒリ、纏少待に思つた。

(三) 勤勉——小任り所から勤勉努力をうけつた。

忍りく勉は則、直學であつたのである。

(四) 忍耐——勉はしつし、勿論、或る時休息も欠

かておの、忍耐を守り、疑問には休み、勉

故神口博士筆蹟 上巻 研精不倦正傳 十段 原稿(其其公照)

生活態度

- (一) 慎重——冒險を行はず。賭博、投機を行はず。株を買うことをしなかつた。学生時代にも山かけ勉強をせず、ノートを限なく読破した。
- (二) 協調——人と争うことを避く。同僚の間の調和につとめ、纏め役に廻つた。
- (三) 勤勉——小供の時から勤勉努力をつづけた。恐らく勉強、則、道業であつたのであろう。
- (四) 規律——勉強しても、勿論、或度の休息は欠かさない。規律を守り、夜間には休み、勉強は出来るだけ昼間に行うことにした。
- (五) 節約——無駄遣せず、必ず節約した。此も少年時代からの自らの癖せであつた。少年時代の小遣、お貨金は一切、郵貯にしていた。其が十四才の時に起きた尾濃震災の時の郷里の親の家の再興費に充てることが出来た。其金高は五十円ばかりであるが、今の金にすれば四五十万円に当るであらう。名古屋の中学に居た頃、自家に帰るときに汽車には乗らず、五里の道を徒歩で済ませた。
- (六) 奉仕——節約、儉素ではあつたが、乱りに蓄財するのではなく、公に奉仕することを怠らず、余つたものは努めて寄附した。親から貰つた相続財産の全部(土地)は之を郷里の小学校に寄附した。後日、金若干万円を特に京大経済学会にも寄附した。其他、適時寄附した。
- (七) 生活——煙草は初めから飲まない。酒は若い時には父の慣習に従い飲み覚えだが、二十八年の時から之を禁止した。食事は八分目主義で、節食を旨とした。